

・グループリーダー

B班は、「観光・交流人口」と「障がい者福祉」の二つのテーマであります。

「観光・交流人口」は、「るもいらしさ」と「おもてなしの心」を活かした観光のまちづくりを、フレーズとしている。

着地型観光・地域資源の活用・留萌ブランド・JR留萌線・重要港湾・留萌港・高規格道路・歴史文化・音楽合宿・スポーツ合宿・道路整備・スポーツや音楽を通じた地域経済活性化などをキーワードとしている。

「障がい者福祉」は、人にやさしいまちづくり（だれもが住みたくなるまちづくり）がフレーズとなっており、地域で支え合う福祉・多様な就業機会・雇用拡大・NPOやボランティア育成・就学支援・生活保護制度め差別や偏見・思いやり・障がいの早期発見と早期療育・保健・医療・福祉・労働・教育の連携が、関連するキーワードとして、提言しますので、これらについてプラスアルファとして、皆さま方からの多数の意見をいただきたいと思ひます。

・市民

観光・交流人口、いかに留萌らしさを皆んながどう感じるかを最初のキーワードとして、転勤層・高校生もおられる中討論に入ってはどうか。

・市民

観光協会のホームページで、るもいらしさをアドレスしていますが、特に観光という部分で掘り下げていくと北海道は観光大国なので、留萌が他の地域と同じことをやっても、埋もれていくだけかなと思ひます。

留萌市は、食べ物について美味しいものはあるが、景観なり、アクティブにしても、海にしても留萌はどう訴えていけるのか、それぞれターゲットを年齢層毎に絞って、例えば、歴史文化では佐賀番屋、ファミリー層は、海水浴場などが留萌らしさでは。

・市民

留萌市の交流は、中国とかサハリン、ロシアなどと交流を進めてきているが、留萌市の産業で、今かざの子条例が議論されている。

我々水産業界は、それらの中で、経営を営んでいる現状である。企業毎に取引先がそれぞれあるので積極的に取り組んでいく。

過去に市が北米の町と姉妹都市の提携を結んでいた。交流を通して双方の歴史、例えば、ニシン、サケなどの交流を通して世界での体験等、留萌市の街のづくり方や住んでいる環境などを交流で体験する中から、アイデアが生まれる、地元だけの視点では難しい、若い人達に交流に参加出来る機会を設けることが必要と考える。

・市民

かざの子条例について、あまりにもザックリしすぎるのでは、年度別に計画を立てることが必要では、かざの子、ニシンに限って言えば、食べやすいメニューづくりや、年に1回かざの子、ニシン含めた定食のコンテストの開催や、年に1回かざの子安い日の設定など、様々な取組みを発信することが必要では。

・市民

今、留萌・増毛間のJR廃止ということで、多くの鉄道の好きな方々がきています。そんな中で、留萌の知名度も少しは上がっていると思ひれます。

留萌・増毛間のJR廃止後の敷地の活用に疑問があったので、聞きました。

B

テーマ1 観光・交流人口

・議員

留萌・増毛間の JR 廃止の問題については、議会においても対策会議を設置して増毛町議会と連携しながら、まだ結論的には出ておりませんが、JR の敷地等について、安全面が確保された敷地の跡地利用について、無償で譲渡される方向で、現在、留萌市と JR 側と協議中である、ここまでは報告できます。具体的に敷地の跡地利用について、安全面含めて精査中であります。

新聞紙上でも掲載されておりますが、今後、留萌駅が終着となることから 留萌・深川間の課題が JR 側から出てくることが推測されます。

今後は、深川市議会、秩父別町議会、沼田町議会と連携を図るためにも連絡協議会的な組織の設置に向けて、現在推移しております。

・市民

留萌・増毛間の廃止に伴って、観光・交流の中でスポーツ面で、むかし自衛隊から増毛町までマラソンを開催された経過があります。

敷地の跡地を活用して、マラソンのコースとして公認して、海岸線の景観を見ながら走る、そうしたコースは他にはないのでは、参加する選手は家族連を連れてくる、また、道外の参加者は必ず宿泊が伴う、そうした観光ラインとして発信してはどうか。

・市民

観光で食の計画をテーマにした取組みでは、留萌管内的には留萌産ななつ星米などは、全国的に見ても美味しいお米であるが、それらのお米はどこにでも沢山ある、あずま牛もしかり、それだけで観光客を呼ぶのはなかなか難しい面がある。

随一「ルルロツ」は、全道、全国を見ても留萌しかつくっていないのが売りであって留萌らしさである。

かずの子ばかりに頼らないで、色んな食材をコラボレーションして、留萌にしかないものをつくり、それを観光の目玉にし、それらを活用して子ども達に食を通して、留萌らしさを体験含めて取り組むことが必要。

・市民

高規格道路について、留萌駅裏に終着としてのインターチェンジが出来ると思います。

ありふれた名所にしないで、かずの子インターなどとし、らしくないことを、留萌らしさに替えていくこともありかな。

B

テーマ2 障がい者福祉

・グループリーダー

障がい者福祉について意見が出ないのですが、障がい福祉といっても留萌にも沢山の施設があります。

その中で、障がい者も多数おられる中で、障がい者は障がい者と思っていない、むしろ障がい者という発言をする立場の人が障がい者であって、そう言った面では、留萌は優しい街だと思っている。もっともっと障がい者の働く場だとか、働く条件整備だとか、また、実際に働けない人たちもいる、その人たちが施設に行きやすい方法も考える必要があるのでは。

障がい者団体が主催する年間行事についても沢山あり、皆さん方は参加されていないので、知らないだけだと思います。

具体的に取り組んでいる内容を知らせることも、障がい者に対する優しい街づくりだと思います。

・ 市民

かずの子条例について、あまりにもザックリしすぎるのでは、年度別に計画を立てることが必要では、かずの子、ニシンに限って言えば、食べやすいメニューづくりや、年に1回かずの子、ニシン含めた定食のコンテストの開催や、年に1回かずの子安い日の設定など、様々な取組みを発信することが必要では。

・ 市民

かずの子条例について、周りから見ているとバレンタインデーのチョコレートを買って下さい、それがかずの子に特化したもので、それらは企業努力で取り組むべきで、条例化については如何かなと思う。

・ 議員

これは議員条例提案であり、なぜ今かずの子条例かといいますと、初めは地方創生の中で、外貨を稼げる産業は何かを調べ、地方からお金を持ってこれる代表的な産業であり、また、道の水産加工協同組合が、5月5日を「かずの子日」と制定されたことが、きっかけとして、留萌市民が「塩かずの子の生産日本一」という認知と理解をし、お金が地域内経済循環への第一、第二、第三の波及効果があると、その起爆剤として考えてほしい。

・ 市民

かずの子条例については、うまく活用すれば、留萌らしさが現れてくるのかなと思う。

かずの子は、値段が高いというイメージがあるので、料理の仕方とか安くするためには、どうすることがいいのか等の検討や、料理メニュー、食材の活用等を示していく必要があるのでは。それらについて、かずの子条例を作成する上で考えてほしい。

・ 市民

かずの子条例についてもストーリー性が必要と考える。例えば、歴史を踏まえた組立て方、今は全道どこへいっても食べ物が美味しい中で、留萌のかずの子を買ってもらうには、特別な作文を作り、市民が歴史を共有し、盛り上げるためのピー・アールの在り方を含め考える必要があるのでは。

・ 市民

今日参加した方々は専門家ではないので、開催に当たってのテーマりなりのようなグループ討議に参加するのか、どのようなことが話し合われるのか、事前に周知されれば話し合いの内容に深みが増すのでは。